

とがし 富樫氏の歴史探訪展

ふじわらのとしひと
藤原利仁の流れをくむ富樫氏は、利仁から6代目の家国が「富樫介」
を称し、^{こうへい}康平六年(1063)に館を野々市に築いたことが始まりとされています。

加賀では林氏が勢力を拡大していましたが、鎌倉時代初めの承久の
乱(1221年)で林氏の本家は敗れてしまい、富樫氏が加賀の武士団の筆頭
となりました。

あしかがたかうじ
足利尊氏に従い戦功をあげた富樫高家は、^{たかいえ}建武二年(1335)に加賀国の
守護に任じられ、野々市の館(守護所)で統治を始めました。富樫氏は
代々守護を継承しましたが、一族内で分裂が起こり、守護富樫政親が
^{まさちか}大
叔父の富樫^{やすたか}泰高と一向一揆に敗れた^{ちようきよう}長享の一揆(1488)後の加賀の運
営は一向一揆の人々が行うこととなり、富樫氏の勢力は衰えていきま
す。

げんき
元亀元年から^{てんしょう}天正元年(1570~74)、富樫^{やすただ はるさだ}泰繩(晴貞)は織田信長軍の越
前出陣に応じたことにより一向一揆に攻められて、^{でんとうじ}傳燈寺(金沢市伝燈
寺町)で討たれ、逃亡した兄の^{やすとし}泰俊は越前で自害
し、富樫氏の本家は滅亡しました。

このように富樫氏は野々市を拠点にして、
^{えいこせいすい}栄枯盛衰の時代を駆け抜けました。今回の企
画展では、野々市に所在している富樫氏に関
係する歴史資料を紹介します。1200~1500年
頃の野々市を想像しながらご覧ください。



富樫家国銅像(野々市市文化会館)